

サツマイモ掘り体験

たかおかこども園 父親たちも参加

富士市厚原のたかおかこども園(渡邊宏行園長)は20日、2歳児1年長児約200人を対象に、「秋のサツマイモ掘り体験」を同園近くの畑で行った。園児の父親で組織するPAPASの会のメンバー19人がサポート役として参加。園児たちは手を土まみれしながら大きく成長したサツマイモを掘り、収穫の喜びを味わった。収穫したサツマイモは、5月に園児たちが植え付けた「紅あずま」約300本の苗を植え、水やりや草取りなどをして育ててきたという。

園児たちはメンバーと一緒に畑に入り、収穫を開始。畝(うね)の表面から飛び出したサツマイモのツルを目標に、周りの土をかき分け、目当ての芋を引き抜いた。メンバーから「わんちゃんのような手つきで土を掘って」「ここにお芋さんあるよ」などアドバイスを受けながら一生懸命に作業。大きな芋はメンバーに手伝ってもらいながら引き抜いた。中には園児の顔より大きな芋や、いくつもつながった芋もあり、園児たちは「いっぱいお芋が取れたよ」「すごいでしょ」と話しながらうれしそうに笑顔を浮かべていた。

収穫した芋は、各家庭に持ち帰った。体験に向けては、事前にメンバーがツルを刈り取り、収穫しやすいよう準備。一カ所の畝のみツルを残し、どのようにツルや芋が成長しているのかも園児に確認してもらった。同会の櫻井新一会長は「食育につながることも、家とは異なる子供の姿を知ったり、父親と子供が交流を楽しくしたりするいい機会になっている」と話した。

PAPASの会のメンバーと一緒に一生懸命に土を掘った



ツルの伸び方を確認



手伝ってもらったメンバーにお礼を言った



「大きなお芋が取れたよ！」

収穫の喜び味わい笑顔